



連携室便り

発行日：27年1月

取手北相馬保健医療センター

医師会病院

—医療連携室便り—

—第32号—

謹んで
新春のお慶びを
申し上げます

取手北相馬保健医療センター

医師会病院

病院長 鈴木 武樹



明けましておめでとうございます。旧年中は、当院に対して多方面にわたりご指導、ご協力ありがとうございました。

昨年の当院にとっての大きな出来事としましては、4月に取手市医師会が公益社団法人へ移行したことと、7月に院内に筑波大学寄附講座が設置され「取手地域臨床教育ステーション」がスタートしたこととあります。これにより地域医療支援病院と併せ3本の柱が揃ったと認識しています。

これを受け、今年はいよいよ当院理念である「H.E.A.R.T」の実践に向けた新たなスタートとなる年と考えています。具体的に述べますと、H(優しさ)E(効率的)のために、この春病院機能評価取得を予定しています。A(向学心)のためには、筑波大学寄附講座を活用した高度先進医療への循環型支援体制の充実を考えています。R(地域性)につきましても、療養病棟をより効率的に運営すること、かつ取手市医師会在宅ネットワーク(在宅いきいきネット)と連携強化を図り、加速化する高齢化に対して柔軟に対応していくこと、さらに日本大学総合内科と連携し取手地域により必要なプライマリーケアの検討を行います。緩和ケースにおきましては、国立がん研究センター東病院との繋がりを一層強化し、この地域でがん難民が出ないよう努めます。以上のことを確実に実行し、最後のT(信頼性)に繋がる病院にするよう努力する所存であります。

私は、地域で出来ることは地域の医療機関で行うということが、地域住民のためであり地域医療の原則であると考えています。先生方より紹介された患者さんを先生方と綿密な連絡、協議、検討を図りながら、しっかり診断、治療させていただいた上に、再び先生の元に返すことが当院の基本方針です。引き続き当院へのご紹介のほど宜しくお願いします。

昨今の厳しい病院経営状況につきましては当院も同様であります。より良い医療提供のためには健全な経営、運営体制のための改革が必要と考えています。いずれにせよ先生方のご指導、ご協力がなければ成り立たないのが当院でありますので重ねて宜しくお願いします。

最後に、皆様のご健勝を祈念させていただき新年のごあいさつと致します。





筑波大学
University of Tsukuba

筑波大学附属病院

取手地域臨床教育ステーションからのご挨拶

筑波大学附属病院取手地域臨床教育ステーションは、取手市医師会と筑波大学の寄付講座協定により「県南地域医療教育学」として、平成26年7月16日に取手北相馬保健医療センター医師会病院内に設立されました。

取手北相馬保健医療センター医師会病院は、公益社団法人として、地域医療支援病院として、地域住民への医療サービス向上にむけ、地域の医師会員の先生方と円滑な連携によるスムーズな紹介体制の強化や、救急医療体制の充実に努めてまいりました。また、診療のみならず、健康診断等の保健予防活動にも積極的に取り組んでおり、県内でも高い評価を受けています。

地域医療を支える医師会病院と、教育、研究、臨床等の最先端医療を担う大学病院との連携は単なる地域医療教育学の寄付講座としてだけでなく、他県の医師会も注目しており、今後の日本の医療体制作りの1つのプロジェクトとしての使命を担っているものと自負しております。

地域の医療機関、基幹病院、大学病院との循環型医療連携の構築のために、細部にわたる病診連携、院内の診療連携体制、筑波大学との病病連携の問題点を分析し、地域医療の充実に貢献したいと考えています。

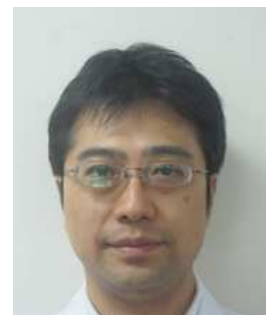


教授 福田 潔先生

2015年7月16日に筑波大学附属病院取手地域臨床教育ステーションに着任し、早や半年が過ぎました。教員は最初、私1人でしたが、12月から福田先生を教授としてお迎えする事ができました。福田教授は松村教授（筑波大学附属病院院長）の同級生であり、筑波大学のバックアップの強さを感じています。

本寄附講座のミッションの1つは、先進医療と地域医療のハイブリダイゼーションであります。日進月歩で科学が進む現在、高度先進医療と地域医療は相反するものではありません。10年前導入が皆無であった電子カルテは総合病院では標準的なものとなっており、本寄附講座でも導入されています。今後、この電子カルテに蓄積された情報はビッグデータとして医療技術だけではなく経営分析などにも活用されると予想されます。

また、私の専門のリハビリテーション医学においてはロボット医療が導入されつつあります。そして、これらの最先端医療と地域医療は人工知能搭載ロボットがインターフェースするようになると予想されます。全国初の医師会によるこの寄附講座がその礎になれるよう邁進したい所存でございます。



准教授 篠田 雄一先生

胃癌治療について

病院長 鈴木 武樹

近年胃癌は減少してきているといわれていますが、調整死亡率で見ますと男性が肺癌に次ぎ、女性が大腸癌に次ぎ依然二番目の高値であります。(平成 15 年厚労省)

今回、胃癌につき当院の治療方針、成績を検討してみました。対象は、直近 2 年間の内視鏡的処置 (ESD) 症例及び手術症例計 64 例としました。今回は、化学療法に関しては割愛させていただきます。治療方針は、基本的に胃癌治療ガイドラインに則り決定し、あまり機をてらったことは行っていません。内視鏡的粘膜下層剥離術におきましては、対象を絶対適応病変 (2cm 以下、UL(-),分化型) としていますが、一部適応拡大症例にも行っています。

ESD19 例の検討において：男女比 15：4 平均年齢 72 歳±8.3 (59～84 歳)、平均サイズ 13mm±4 (6～20mm)、組織型は全例分化型でした。全例治癒切除で癌の残存例はありませんでした。合併症としては、出血、穿孔をそれぞれ 1 例認めましたが、内視鏡的に止血処置及びクリッピングで対応し得ました。また全例に後療法として HP の除菌を行っています。

手術症例 45 例の検討において：男女比 34：11 で ESD と同様男性が多い傾向でした。平均年齢 69.5 歳±9.2 (49～87 歳)、病期は Stage I a が 18 例と最も多い一方、Stage IV も 3 例経験しました。組織型は、分化型 30 例、未分化型 13 例 その他 2 例でした。局所進行胃癌 3 例に術前化学療法を行っています。術式は、腹腔鏡下胃切除術を Stage I a, I b までに

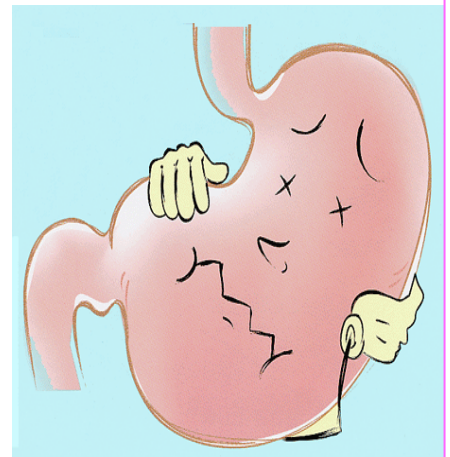
14 例に行いました。(幽門側胃切除術 12 例、胃全摘術 1 例) (1 例 StageIV に対して鏡視下胃空腸吻合術を施行した。) 開腹手術は 31 例で幽門側胃切除術 12 例、胃全摘術 19 例でした。合併症としては、吻合部狭窄 5 例、術後膵炎 1 例、縫合不全 1 例を認めました。膵炎、縫合不全併発し再手術となった 1 例以外は保存的に軽快しています。

胃癌に限らず癌のケースは、診断、治療 (内視鏡、手術、化学療法)、再発した場合緩和ケアまで広範囲、長期間にわたり患者さんと向き合い治療にあたらなければなりません。地域医療支援病院である当院としましては、単に診断や手術のみでなく地域住民である患者さんのために生涯にわたり対応していく方針があります。

具体的には、内視鏡は、内視鏡学会専門医で連日対応し、ESD は日本大学消化器内科内視鏡グループが行っています。手術においては、腹腔鏡手術は日本内視鏡外科学会技術認定医 2 名が主として執刀する体制をとっています。また緩和ケアにおいては、毎週筑波大学から緩和認定看護師を招き多種職でカンファを開催しています。今年だけで国立がん研究センター東病院より 63 例の緩和症例を紹介されています。また在宅緩和ケアを希望される場合は、取手市医師会在宅ネットワークと連携を図り退院前に患者、家族を交えカンファを開催しスムーズな在宅への移行を図っています。

癌のいずれの段階でもかまいません。できる限りの対応をさせていただきます。

ご紹介をお待ちしています。



胸部X線検査精度管理審査 総合評価 A 取得

この度、公益社団法人全国労働衛生団体連合会の総合精度管理委員会が実施す、平成26年度胸部X線検査精度管理審査において「総合評価A」を取得することができました。

胸部X線検査精度管理審査とは、胸部X線検査の撮影技術（画像処理技術を含めた総合技術）及び読影技術について評価し、必要な指導を行うことにより、信頼性の高い優良な健診施設を育成することを目的としている審査です。

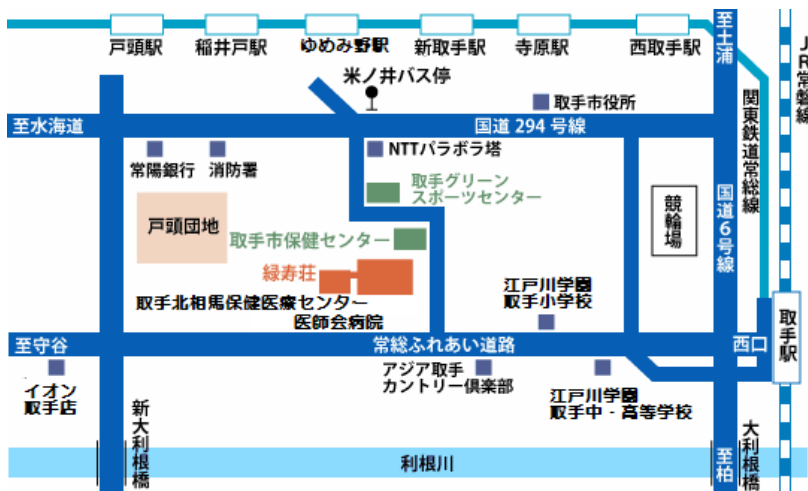
近年、肺がんによる死亡率は上昇しており、2013年の部位別がん死亡率では、男性1位、女性2位となっています。健診における胸部疾患の診断精度を向上し、早期発見・早期治療を行うことは、肺がんによる死亡率を減少させるために必要不可欠と考えられ、胸部X線検査の高水準化が求められています。

今回取得した「総合評価A」は、当健診施設の胸部X線検査の水準の高さを示す指標であり、今後、肺がんの発見率向上に寄与するものと考えています。

以上、胸部X線検査精度管理審査で取得した総合評価Aについての紹介とご報告をさせていただきました。今後もこの評価に満足することなく、撮影技術・画像処理技術の向上に努めてまいりますので、ご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

放射線科一同

交通アクセス



取手医師病院の理念 Heart (心・優しさ)

H — 優しさに溢れた医療 (Hospitality)

E — 迅速で効率的な医療 (Efficient)

A — 向学心に満ちた医療 (Academic)

R — 充実した地域医療 (Regional)

T — 信頼感のある医療 (Trustful)

編集：医療連携室

TEL:0297-78-6183(直通)

TEL:0297-78-6111(代表)

FAX:0297-78-6184

